

医療法人新会計基準の有用性と課題に関する研究

代表研究者 福山 祐介
藤田医科大学 医療科学部

研究要旨

一定規模の医療法人は、医療法人新会計基準の適用が義務化となっている。本研究は、この義務化対象となった医療法人より、各自治体へ実際に届出のあった決算関係書類を調査し、医療法人における財務状況やその課題の把握を目指した。

筆者が先行調査を行っていた愛知県に加え、今回は東京都と大阪府を調査し、対象の拡大を行った。5割に迫る医療法人が損益計算書で純損失を計上しており、多くの医療法人が財務面で課題を抱えていることがわかった。また、新たに義務化されたメディカルサービス法人の報告などを通じ、各医療法人が行っている財務上の工夫も明らかになった。「医療コンサル（調査事業協力）」「健康診断事業の譲渡」など専門性を活かした事業外収益を通じ、財務面の改善を見据えている医療法人が多くあることもわかった。
